

ようぼくの心と心をつなぐ News Letter

言葉が出ないなど、知的障害のハンデを持つ息子の侑真は、現在、特別支援学校に通っています。そんな息子に、「学生生徒修養会に参加しませんか?」と電話を頂いたのは、5月半ばのこと。正直、戸惑いました。

「絶対に迷惑をかけてしまう」。そう強く思いました。『学修サポーター』の奥村慎二さんと電話で話していると、息子が近づいてきて「学修に行きたい」とアピールしてきます。人の話していることは理解できるので、そんな息子の姿を見て「一度、参加させていただく」と思いました。

当日までに、学生担当委員会の担当の方と本人、私たち両親で面会し、本人の状態など、詳しく話を聞いてくださいました。「学修」の内容の説明も受け、本人もその場で「行きたい」と意思表示しました。

不安はありませんでしたが、期間中の一週間は、あつという間に過ぎていきました。詰所に迎えた。詰所に迎えた息子の顔は、いまでも忘れられません。笑顔があ



「学生生徒修養会」の仲間と共に、笑顔あふれる芝田侑真くん (写真=後列中央)

息子の成長感じた「学修」

南阿太分教会ようぼく 芝田令子さん

ふれ、楽しそうで、一回り成長した感じも受けました。ただ、もつとおちばにいたかったようで、帰りの車中ではふさぎ込んでしまいました。

自宅に到着してからもしばらくは車から降りようとせず、少し心配しましたが、「学修」のレポートや班の写真、寄せ書きなどを見せてくれる息子の笑顔は、詰所で見たのと同じように輝いていました。

その寄せ書きには、いたるところに「笑顔よかったですよ」との文字が。期間中、いつも笑顔でいてくれたんだと安心し、本当に参加させていたでよかったと胸が熱くなりました。そして、その瞬間親が考えている以上に、息子はちゃんと成長しているんだな」と気付かせていただきました。また、人間思案を捨てて、親神様・教祖にもたれて通らせていただくことの大切さを、息子から教えられました。

すべては、世話取りしていただいた方々のお陰だと、心から感謝しています。「学修」に行っている息子のことを、気にかけてくださっている方がたくさんいることに気付かせていただきました。また、元気で無事に過ごせるようにと、毎日、お願いづつめをしてくれた母にも感謝しています。

教祖百三十年祭の「仕上げの年」に、このような行事に参加させていただき、大きな喜びを頂きました。15年前に、当時0歳の息子連れて修養科に行かせていただいたことに、今回の「学修」への参加が繋がっているような、不思議な思いが込められています。そして、親神様・教祖に導かれていると実感しています。これからも信仰を忘れることなく、親子共々、成人を目指して歩みを進めたいと思います。

- 1~30日 にをいかけ強調の月
- 5日 大教会秋季霊祭
- 6日 おちば伏せ込み団参(午前中)
- 6~13日 青年会全分会布教推進週間
- 11日 教会おとまり会(岡隊・飛鳥川隊)
- 13日 婦人会委員会
- 15日 大教会ひのきしん(道弘)
- 21日 大教会ひのきしん(相嘉)
- 22日 吉田つる二十年祭 役員会議
- 祭典準備ひのきしん
- 22~23日 大教会ひのきしん(表野・飛鳥川)
- 22~23日 婦人会伏せ込みひのきしん
- 23日 大教会月次祭 家族参拝デー
- 23~26日 婦人会詰所ひのきしん
- 24日 創立百二十年準備会議
- 大教会ひのきしん(東松浦)
- 25日 おちば伏せ込み団参(早朝)
- 25日 詰所運営委員会 青年会委員会
- 26日 学生担当委員会
- 28日 本部月次祭 祭典後お礼つとめ
- 28日 教会長路傍講演の日
- 28~30日 全教一斉にをいかけデー

※「岡心勇隊」の開催日は、11ページに掲載

◆一期講師(8月~10月)

飛鳥川 出口 浩和

◆教養掛(9月)

- 芦刈 山内 光男
- 白石町 古閑 惇也
- 大博 長谷 美幸
- 北有明 本山 綾香

◆修養科第889期修了者(7月27日)

- 表野 椎葉 里歩
- 相嘉 森下 恵之
- 西北 高口 喜代江
- 肥里 栗原 茜
- 西大阪 森田 麻美
- 筑八 井上 萌恵
- 今光 大中原 雄希
- 瀧登 函師 隆行
- 瀧登 函師 麻奈美

◆別席願

- (7月16日~8月15日詰所受付分)
- 須光 光武 優平
- 瀧登 常道 ほたる
- 南阿太 高森 美幸

◆おさづけの理拝戴願

(7月16日~8月15日詰所受付分)

【お詫びと訂正】

前号掲載の長谷川智将さん体操日本代表入りの記事で、「福門分教会ようぼく、長谷奈緒美さんのお孫さん」は「長谷川奈緒美さんのお孫さん」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

婦人会「伏せ込みひのきしん」

R178年7月22~23日

暑い中でのひのきしんになっておりましたが、雨のご守護を頂き、心も身も楽に過ごさせていただきました。



担当係/吉田百合子(東松浦)

参加者/谷川謙子(岡道)、野田初音(大博)、田原由美(警固)

中谷繁代(岡谷)、小川二三代(紫王路)、和田潤子(西肥) 順不同

大切なのは「心」条だ

ひとすじ

7月月次祭

神殿講話要目

大教会役員 吉田政彦



現在、年祭活動の一つとして『稿本天理教祖伝』を拜読させていただいている。以前、『稿本教祖伝逸話編』を拜読していて、「100 人をたすけるのやで」が気に入った。『逸話編』の中

で教祖は、「心配要らんで。どんな病も皆御守護頂けるのやで」と話され、続けて「欲を離れなさいよ」とおっしゃっている。そして、ご守護頂いた後に教祖は、「心一条に成ったので、救かったのや」と仰せられた。

欲を離れなさいと言われて助かったのならば、「欲を離れたからたすかったのや」と言われれば、私は得心がいく。しかし、教祖のお言葉は「心一条に成ったので、救かったのや」と。「欲を離れなさい」と「心一条」の間の関係は何なのかと考えた。

このご逸話でご守護頂かれた小西定吉先生は、教祖のお言葉が強く胸に食い込み、ある決意をされる。それは二つ。一つは、身の回りのお金をすべて奥さんに渡し、手元から離す。もう一つは、一心に神様にお願ひするということ。

この二つのどちらかが、欲に絡んでいるのだろうか。身の回りのお金は何なのかというと、生活の糧である。そのお金で医者に診てもらい、薬を買うことができる。もしかしたら、中山家のように修験者呼んで「寄加持」をしてもらえるのだろうか、それすら全部手元から放して、残ったの

上救からんで」とおっしゃられた。普通なら、この後どうしますか。どこか他に、たすけてくれる人を探しに行きませんか。私はそう思う。神様か仏様か、はたまたお医者さんを探しに行くだろう。しかし、伊三郎先生は、「たすからん」と言われた教祖のところに、三度行かれる。

普通の人間思案からすれば、神様から「あかん」と言われたら、ほかの神様を探しに行くでしょう。しかし、伊三郎先生は「身上救からんで」と話される教祖のところに、三度も足を運ばれる。その姿を神様はなんとおっしゃったのか。それは、「真実なら神が受け取る」という言葉。その真実、子供が親のためにという真実の元は何だったのかというと、「一条心」だったのだと思う。

ほかに頼るところが無かったのか。それとも思いつかなかったのか。「ほかに頼る」ということが頭に無かったのだと思う。「神様だけ」、「教祖だけ」と思い、「救からん」と言われるところに三度も足を運ばれる。

三回だから受け取っていただけたのかというと、決してそんなことはない。あるいは、三度目でも聞いてもらえていなかったら、伊三郎先生はどうされただろう。きっと、母親が出直すまで何度も足を運ばれていたに違いないと思う。神様を守って頂くしか、考えられなかった。それを、私たちに「一条心」と聞かせてくださっているのだと思う。

先日、敷島大教会前会長の山田忠一先生が、東松浦にご巡教くださった。そのときに聞かせて頂いたお話に、東京大学へ行きかけた思いが、三代真柱様の一言で変わったというものがあつた。

山田先生は、九州大学出身。本当は東京大学への進学を考えておられたようだが、三代真柱様のもとへ相談に行くと、「宗教学の勉強をしたいなら、九州大学へ行くように」と言われたのだ。そして、親の声一声で何をしたいかがはつきりと定まったと話された。

やりたいこと、すべきことがはつきりしてくると、道筋が見えてくる。漠然とさまざまなことを考えているうちは、道筋が二筋も三筋も見え、何をしたいのかわからなくなってしまふ。それが私たちの思案なのだろうと

は「一心に神名を唱えてお願いした」ということだった。

つまり、「欲を離れる」ということにいくらかでも関係のありそうな「手元の現金」を手放すということは、「心一条」になるための手立てであり、方法だったのだ。しかし、私は何を勘違いしていたかというところ、「欲を離れたらたすかる」と思っていた。なので、さまざまな時に「欲を離れたらたすかる」と話していた。

「身の回りのお金をすべてお供えして」というのは、確かに手元から現金を放し、欲を離れている作業につながっているように見えるかもしれない。しかし、それは単に「欲を離れる」ための作業ではなく、一条になって神様にもたれるための大きな道筋であったのだ。ですから、ご守護頂いた結果、教祖は「心一条になったから救かった」とおっしゃった。

「身の回りのお金を手元から放す」ことは、はたして「欲を離す」ことにつながるのかはよくわからない。神様は見抜き見通しだから、この人にはこのように伝えれば心一条になっていくだろうと導いて下さる。結果、小西定吉先生は、教祖のお言葉が胸に食い込み、神様の思惑通りに動かれた。そう思うとき、教えていただいている真意は、おそらく「心一条になれ」ということではないか。

一方で、私たちは「心一条になれ」と言われても、どういうことかかわからない。『逸話編』の「16 子供が親のために」は、「心一条」に関して非常にわかりやすいお話であるから紹介したい。

梶井伊三郎先生は、母親のご身上をたすけていただきたく、教祖の御許へ「たすけてください」と行かれる。しかし教祖は、「せつかくやけれども、身

考えたとき、「一条心」と聞かせていただく私たちの心遣いこそ、神様が自由に使えるようにして下さっている心が、最も受け取って頂けるような心になっていくと思う。そして、先人先生方の歩みを通して教えていただき、仕込んでいただく、大切な私たちの心遣いの筋道なのだと感じる。

このお道には、五十年にわたる教祖のひながたの道をお残しくださっている。これは、私たちがこの先の道を通る上での通り方の手本となっていくが、決して歩んで行くだけのものではなく、心の使い方であるとか、身の行い方など、ありとあらゆるところに関わってくるのだと思う。少し乱暴な言い方かもしれないが、教祖のひながたは、神一条の精神とたすけ一条の行いであつたという気がする。

教祖のお心は親神様であるということは、誰もが知っていること。しかし、ひながたという形で私たちに残されたものであるならば、それは「神一条」に心を向けていく手本であつたといつてもいいだろう。あるいは、その行いは「世界一れつをたすけるために天降った」と言つてくださるわけだから、たすけ一条の行いでもあつた。

この二つが、教祖のひながたであつたと言つてもいい。この二つが、私たちが使わせていただく心遣いの基本中の基本として、神一条の精神、たすけ一条の心、ひとすじ心という姿でお残し下さっているのだという気がする。ただいまは、教祖百三十年祭を迎えさせていただく年祭活動「仕上げの年」。その中の、後半のかけりである。残すところ、年祭まで半年。しかし、あと半年も残っているのだから、この半年をどう務めさせていただくかが大切である。

「成人」というのは、同じところにはなかなか成人とは言えない。変わつていかなければならない。今日よりも少しでも進んだ姿、一日ずつでも進歩していくところに、成人の姿をお見せいただくのだろうと思う。年祭の句は「成人の句」と教えていただく。ならば、一步一步しっかりと、今日より明日、明日より明後日と、残された半年を、共々に成人の句を勇んで歩ませていただきたいと思う。

笑顔ひろがれ！たすけあい 「ふれあい広場」 「おはなしのさと」 「ドラム特集」

みんな大好き

「ふれあい広場」編

おちばがたくさんの子供たちでにぎわった「こどもおちばがえり」。詰所では期間中、各地から約1千200人が帰参した。また、恒例の「ふれあい広場」は、外部団体の利用も併せて、連日、多くの子供たちで大賑わい。10種類を超える模擬店や会場の衛生管理、食事の準備、宿泊の世話取りなど、多くの特別ひのきしん者やヤングひのきしん隊らが受け入れを担当。今年も、笑顔ひろがる「こどもおちばがえり」となった。



親神様・教祖を遙拝し、いよいよ「ふれあい広場」がスタート。

多い時で、一日に約500人が利用する模擬店。一人ひとりに、美味しい「手料理」をふるまう。



当時の情景が浮かぶように、子供たちに優しくかたりにかける「おはなしのさと」は、今年も大好評だった。



ふれあい広場に今年初めて登場した、「ボールプール」(写真=上)は、大人気コーナーの一つに。すべり台(写真=左)の人気も高く、子供たちの歓声が響いた。



子供たちにも「教祖を身近に」

大好評の「おはなしのさと」

昨年、初の試みとして「ふれあい広場」にお目見えした「おはなしコーナー」。子供たちはもちろん、保護者からも好評を博し、今年はりニューアルとバージョンアップ。「おはなしのさと」として一室を設け、再登場した。

この「おはなしのさと」のコンセプトは、「少年会員に、少しでも教祖を身近に感じてもらいたい」。『稿本天理教祖伝逸話篇』をもとに紙芝居風に作られた「おやさまのおはなし」(少年会本部)から5つのお話を抜粋し、独自の巨大絵本を作成。中学生層の少年会員と、高校生層中心の学生会員で構成されるヤングひのきしん隊のメンバーが語り部となり、教祖のひながたを伝えた。

「ただ楽しいだけでなく、教祖のひながたを学べる『おはなしのさと』は、貴重な仕込み行事の一つだと感じる」といった声が聞かれた。

鼓笛隊「アルパトロス」 一歩及ばず涙の銀賞 「来年は一回り大きくなった姿をお供えします」



「アルパトロス鼓笛隊」。シルバー、銀賞

「鼓笛オンパレード」の審査結果が発表されたその瞬間、期待と不安で抑え込んでいた胸の奥の感情が、涙となってあふれだした。

子供たちの笑顔あふれる「こどもおちばがえり」には、もう一つの物語がある。それは、鼓笛隊のおちばがえり。一年間の練習の成果を親神様・教祖に「お供え演奏」し、「オンパレード」で審査を受けるのだ。

一生懸命、練習に取り組んできた一年間を「お供え」する喜びと、その集大成への審査結果が、子供たちの成長へとつながる鼓笛隊。それは鼓笛活動としてだけではなく、少年会員の誓いにもある「立派なようぶく」に育つための肥やしとなっている。

今年に残念ながら「銀賞」となり、悔し涙を流した鼓笛隊員。来夏はきつと、一回り大きくなった姿を「お供え」し、感激の涙を流す夏になるに違いない。

「息の長い支援」と言ってきた



第20回生活復興ひのきしん隊報告
8月6日・南相馬市

第20回隊は、南相馬仮設住宅に今も住み続けられている方々の、現在の気持ちを肌を感じる訪問となった。

今回は、明日香村の行事「光の回廊」の日程変更によって繰り上げられた8月6日に実施。こどもおちばがえり直後にも拘らず全体で47名の参加となった。今回の訪問先は牛河内第二仮設住宅。活動内容は、本隊（16名）が取り組んだ15軒での換気扇クーラー網戸などのお掃除。高齢者が多く、普段行き届かない所を丁寧にしきれいにさせてもらった。加えて、教会長子弟練成会チーム（中学生13名スタッフ9名）による、かき氷と冷たいゼンざいのサービス。仮設自治会みなさんが大歓迎で迎えて頂いたお陰で、すべて順調に進み、且つ又、大いに喜んでもらった。



宿営地で「福島の今」をお話下さる猪苗代分教会長の齋藤容久先生（6日）

ら歩く中学生たちには、温かい労いの言葉がアチコチで寄せられた。中には目に涙してお礼を言ってくださった方もあった。子や孫たちと離れて暮らす高齢者の多い仮設住宅だからだろう。結果、冷たい飲み物やアイスクリーム、スイカなどで逆に接待を受ける場面が多くあった。しかも昼食にと自治会の婦人さん方がいろいろ料理までしてくださった。

殊に、猛暑の中を一軒一軒訪ねて、お土産の三輪そうめんトラスクを配りながら、

情報では、ボランティアの数も激減する中、頑張り続けるお道の支援グループも、夏場はほとんど来ないと聞く。無理を押し出かけた甲斐があったと、参加者たちの胸にも熱いものが込み上げてきた。

今回のハブニングは、昼過ぎに小池小草仮設住宅の鈴木自治会長夫人が差し入れに來られた事だ。それで急遽、子弟練成会チームは小池小草へも行くこととなり、再び炎天下の仮設住宅内をお土産持参で歩き回った。喜んでくださった鈴木自治会長さんも一緒に歩いて、「奈良の天理から来てくださったよ」といよいよ紹介を。言うまでもなく、ここでもアイスとジュースの

大歓迎を受けた。

今も南相馬には、津波と原発事故で被災した人たちが暮らす仮設住宅が30余在る。政府は来年3月で仮設住宅による対応に区切りをつける。しかし、多くの人はその先の行き場を明確にできないでいる。事情は様々だが、それぞれに簡単ではない。そうした先の見えない不安に、心通わせあう支援活動の存在は一点の光明をともし続けていく。

岡大教会の支援活動も、これからが問われている。

本隊は、7日朝から宿営地を出て、お盆の交



子弟練成会チームは、翌7日は東京での練成プログラムに参加。充実した夏休みの思い出を胸に、それぞれ岐路についた（8日、関空で）



一軒ずつ訪問し、かき氷と冷たいゼンざいを届ける（6日）

（大垣所属）、それに初参加で静岡の小田木さん家族6名（郡山所属）が、賄い方を担当してくださった。

一方、仮設住宅集会場に泊まった中学生男子は、早朝から仮設の皆さんの見送りを受けて宿営地に戻り、全体合流。車中から、累々と積まれた黒い大きな袋（除染で出たごみ）を見ながら7日の活動地東京へと移動。最終日の8日は東京からおちばを通り、関空へ。今回はバス移動の時間が長く、朝夕のおつとめも朝食もほとんどマイクロバスの中で行った。練成会のテー

通渋滞を避け、中央道を抜けて、おちばの夕づとめに間に合った。おちば出発、おちば到着で、今回も無事お連れ通り頂けた。今回も、秋田からの鈴木さん（那美岐所属）、草薙さん、斉藤さん

依頼があったお宅へ伺い、隅々まで丁寧にお掃除させていただく。心を込めた作業に、飛び込みの依頼もあった（6日）



魅力あふれる「学生生徒修養会」

おちばに集う高校生が、共に学び語り合い、自らの信仰を見つめる「学生生徒修養会（高校の部）」今年も、岡学生会から15人（そのうち初参加者は14人）が参加した。一週間のプログラムで、高校生の心をつかんで離さない「学修」。その魅力を、参加者の声と共に紹介する。



◆なぜ「学修」に参加しようと思った？

「参加した事が無く、不安でいっぱいだった。しかし、学修サポーターの奥村慎二さんから学修の魅力を知り、参加を決めた」と話すのは、出口歩美さん（飛鳥川・高2）と畑楠萌さん（飛鳥川・高1）。学修サポーターの活動が実を結んだ。その他、所属教会長や家族、学修参加経験のある兄弟、知人からの勧めが参加の動機という声も聞かれた。

◆学校でのレクチャーは？

ほとんどの参加者が、「宿舍での夜更かしがたたって、とにかく眠かった」と苦笑い。しかし、その中に「教祖のお話を、分かりやすく教えてもらった」と話す森井大一さん（眞世・高1）は「初めての話を聞いて嬉しかった」と話した。

間と共に一生懸命、真剣に取り組めた」「一人ではなく仲間と一緒に、一手一つに頑張れた」という。

◆「学修」に参加してどうだった？

岡からの参加で、「初めての学修」というのが14人だった今回。全員が「来年も参加したい」と話している。

その中の一人、「天理教を知ってまだ間もない」と話す神谷愛美さん（南阿太・高1）は、「天理教のことをもっと知りたい！もっと勉強したい」と話している。



「学修」前日に大教会参拝した参加者。大教会長からの受講の心得に、真剣に耳を傾ける。（8日）

「学修期間中、

自身の身上を通して、親神様のご守護を感じた」と話すのは、松本利幸くん（肥道・高1）。



「学修」を終え、詰所でふりかえり。熱のこもった感想が聞かれた。（15日）

「お願いができるように心定めをし、学修のことを忘れないようにしたい」と振り返る。

高校生活最後の夏に、初めて参加したという椎葉里歩さん（表野・高3）は、「いつか絶対おちばで集まりたいと思う、大切な仲間ができた」と、学修の思い出を話す。そして、「たった一週間だったけど、泣いたり笑ったり、深い話をしたり、本当に充実した一週間でした。天理教の人は思いやりがあって、いい人ばかりで、

1」と出口奈々さん（飛鳥川・高1）。また「おつとめや、人とのつながりの大切さを学び、本当に心に残る授業を受けることができた」と、柳芳怜さん（道弘・高1）は振り返る。

◆宿舍での生活はどうだった？

回生ごとに寮生活を送る「学修」。寮では、生活を通して信仰と向き合うプログラムや、交流を深める「寮別行事」などがある。

中川涼さん（香蘭・高1）は「何度も帰りたいと思っただけど、日が経つうちに、仲間と一緒に笑って、一緒に泣いて……。かけがえのない仲間ができて、最高だった」と。また、福井結依さん（南阿太・高2）は「何をしてもクラスの仲間と一緒に、寝食を共にし、たくさん話を聞き、自分も話し、本当に楽しかった」と話す。

◆「ひのきしん」や「にをいかけ」は？

「学修」では、さまざまなひのきしんやにをいかけにも取り組む。「太陽が照りつける中でひのきしんは暑くて大変だったけど、とてもスッキリした気持ちになった」と話すのは、柏原勇介くん（南阿太・高1）。そのほか、金武恵理さん（香蘭・高3）や松本孝輔くん（眞澄・高1）は「初めての話を聞いて嬉しかったけど、仲間と一緒に、一生懸命、真剣に取り組めた」と話した。

そんな天理教に私も関わっていきたくて思いました」と、「学修」での一番の収穫教えてくれた。



一週間という期間の中で、自身の価値観や考え方、人とのつながり、信仰などを省みる「学修」。

学修サポーターを務めた奥村慎二さん（岡村）は、「詰所に帰ってきた学生の笑顔から、自身が参加していた当時の感動を思い出した」と。そして、「今回は、事前に学生担当委員会と打ち合わせをし、受け入れ準備を整えたもらった参加者もいた。学修は、大きな親心をかけていただいている場所だということを、改めて知ることができた」と話す。

家族みんなそろって おちば伏せ込み団参へ



次回は 9月6日（日）
10月4日（日）
10時 集合／ひのきしん実動
12時 定時のおつとめ参拝
皆さんの参加をお待ちしています

年祭活動最後の「にをいかけ強調の月」

さあ、みんなで「岡心勇隊」へ！

各地で、戸別訪問や神名流し、路傍講演など、いつも以上に活発な布教活動が展開される9月。いよいよ全教挙げての、それも年祭活動最後の年の「にをいかけ強調の月」が始まります。大教会における布教活動の、大きな柱となっている「岡心勇隊」。これまでにも教会や個人の「心定め」達成に向けて、各地で活発な実動が展開されてきました。また、支部の布教活動とタイアップした動きや、各拠点会場間の交流も見られ、更なる内容の充実へと歩を進めています。

そんな中の「強調月間」。昨年この時期には、「岡心勇隊」の全教会実施」を目標に掲げ、活動を展開。全29拠点で、活発なにをいかけ実動が行われました。「年祭活動最後の年の布教強調の月。日々、それぞれが思いを持ってにをいかけに歩いてはいるけれど、『さあ、みんなで！』というのが9月の実動でもある(大教会長)」と、今年も同じ目標のもと、「強調の月」を盛り上げていきます。

また今回は、青年会岡分会(上田耕平委員長)

が「布教活動のけん引役としてつとめさせていただけよう」と、青年会員が各会場へ赴くように調整中。教会長を先頭に、教友一同が手をとりあつて、岡大教会全体に動きがおよぶな活動を目指しています。

ぜひ、この「岡心勇隊」を活用し、年祭の旬にふさわしい布教活動を展開しましょう。そのためには、皆さん一人ひとりの協力が欠かせません。今回の地区割りと実施会場、実施日、実動時間は左記の一覧表を参照してください。また、お問い合わせは、各会場の教会、もしくは担当者へご連絡ください。

布教活動のけん引役へ

青年会で9月を盛り上げよう

青年会では、9月6日から13日にかけて「全分会布教推進週間」が展開されます。今年の「週間」目標は、「教会数以上の実動会員の動員」。現在、岡大教会の関係教会数は、全部で104カ所。なので、104人の動員を心に定め、実動させてい

ただきます。また、大教会で展開されている「岡心勇隊」の各会場に、主だった青年会員を派遣。布教活動を盛り上げる「けん引役」を目指します。

実動に向けた具体的な計画は、関西、九州、関東での分会実動と布教キャラバン隊の派遣。実動日と時間は次の通り。

- ▼関東会場▲
 - 9月3日(木) 13時〜 岡瀧分教会
 - 9月6日(日) 10時〜 西北分教会
 - 11時〜 東松浦分教会
- ▼関西会場▲
 - 9月13日(日) 10時〜 岡詰所
 - 14時〜 表時布教所

また、今回の動員に向けて、「誰もができるにをいかけを目指したい」との思いから、青年会岡分会作成のオリジナルチラシを会員へ送付。「一人でも多くの会員さんに、たとえ一枚のチラシでも届けてもらいたい(上田耕平委員長)」と、分会実動日以外の日にも、それぞれのタイミングで実動出来るように考えています。

「岡心勇隊」同様、目指すのは手を取り合った一手一つの実動。「誰かがしてくれる」という意識を捨て、共に力を合わせましょう！力を寄せてください！

「岡心勇隊」開催会場・担当者一覧表

平成27年8月23日現在

地区	主会場	実施担当者	実施日	実施時間	教会名
明日香	大教会	森井幸子・出口美樹	8	09:00~12:00	大教会・飛鳥川・新上・岡谷・高田・南洲
御所	忍海	岡橋岩男	27	10:00~12:00	忍海・敷津
学園前	西大阪	丸田廣也	20	10:00~12:00	西大阪
五條・橋本	彩の台	芝田真一	9	10:00~12:00	表野・表田・相嘉・大和二見・南阿太
大阪	道弘	津田進	18	10:00~12:00	枚方・岡道・岡萩・岡垣・岡村・道弘・道明弘 東松浦大阪・東明実・筑攝・真澄・眞世
門司	福門	村田継明	2	10:00~12:00	福門・松ヶ江・福見山
八幡	住之都	江里道孝・井上明生	4	10:00~12:00	住之都・筑八・貞元
福岡中央1	西北	森川誠子	30	13:00~15:00	西北・鶴城・鳥飼
福岡中央2	大博	野田初音	13	10:00~12:00	大博・千成
姪浜	姪浜駅	秋山大成・清水ゆう子	30	14:00~16:00	西新・呉服町・薬院
太宰府	警固	田原由美	1	10:00~12:00	警固
筑紫	今光	吉原徳光	14	10:00~12:00	今光・紫王路
粕屋	東志免	百濟正則	15	10:00~12:00	東志免・東水町
新宮	大空	山平ミヨ	15	13:30~15:30	大空
飯塚	嘉殿	光武松市	2	10:00~12:00	嘉殿・須光
佐賀市内	教務支庁	吉田百合子・由良野志津	4	11:30~	東松浦・北佐賀・明祐・都渡城 筑後川・肥里・肥陽
武雄	杵島	藤本健二・武藤聡宏	14	10:00~12:00	杵島・上橋・天神免
唐津	肥東	中島道弘	3	11:00~	肥東・松浦郷
伊万里	伊万里	森川清和	13	10:00~12:00	伊万里・西壽・香蘭
多久	肥城	永田良人	21	10:00~12:00	肥城・肥前三日月・肥道・勇虎
杵島・小城	芦刈	山内健司	19	10:00~12:00	牛津・芦刈・芦住・白石町・江北野 東鹿島・西肥・北有明
平戸・佐世保	早岐	出口和史	8	10:00~12:00	北松浦・肥保・西乃島・早岐
壱岐	武生水	塚元孝雄	6	10:00~12:00	武生水
埼玉	岡瀧	常道久雄	3	13:00~15:00	岡瀧・瀧登
函館	岡館	岡崎伊都子	30	10:00~12:00	岡館

(二覧表に教会名のないところも各教会で実施されますので、お問い合わせください)

9月23日は「家族参拝デー」

毎年9月は「家族参拝デー」。家族、親子こぞって大教会に参拝し、親神様・教祖から日ごろ賜るご守護に感謝申し上げます。併せて、祭典後には、敬老のお祝いも。`道の大先輩、を囲んで、共ににぎやかな一日にしましょう。

